

あわくら 歴史街道

山名の軍勢 小原城に攻め入る

戦国時代の武将山名陸奥守氏清の一族は大いに繁栄して、永徳年間（1382年頃）に支配していた国々は、丹波、丹後、但馬、伯耆、出雲、隠岐、美作、和泉、紀伊、播磨、若狭、山城等十余ヶ国を守護国としていました。そのために、日本の六分一殿ともいわれていました。明徳年中（1390年頃）、山名氏清らが謀反を企て、氏清は討たれ、相方の播磨守満幸は出奔してしまい、残る山名一門及び子孫は繁栄していました。この頃、赤松家に乱があり、この乱に付け込み赤松支配の美作の国（先祖の旧領地）を奪い返そうと、一族で相談がまとまり、長享2（1488）年、山名備前守山名蔵人太夫の軍勢が但馬の国より播州に出動、同時期に因州智頭郡を乗っ取り、淀山城、竹内城に向かい勢力を集結し、勢いを蓄えた後美作の国に押し入ってきて、諸処に放火し乱暴を働き、庶民を苦しめました。

山名備前守は、因州と作州の国境知社（村内）の構に出城を構えて立て籠もり、その内に山名蔵人が軍勢を率いて南下し、小原城（旧大原町尾崎）に攻め入りました。小原城兵は、遠矢を射かけて数日間に渡って命を限りに戦う中に、新免次郎左衛門、新免遠江守らが山名軍勢の中に斬り込み槍をしごいて戦い、終に山名方の武将水船平八、水船六郎兵衛を討ち取りましたが、山名方の多氣五郎兵衛の射た矢が小原次郎助に命中して、あえない最期を遂げられました。日夜槍をしごき、弓矢での防戦に力を尽くしてきた守備方の宇野の軍勢にも形勢不利の状態となり、窮地に追い込まれていました。このとき、図らずも播州豊福の一族、本位田軍勢300余騎が小原城加勢のため到着して、山名勢の横合いから一気に突っかったため、山名の軍勢は総崩れとなって知社清水の出城に退却して行く所を追撃して、97の首級を挙げたと伝えられています。（以下次号へ）

（文献 新免家古書写）

人の動き

平成22年2月1日現在

- 人口 1,618人(-1)
 - 男 750人(-3)
 - 女 868人(+2)
- 世帯数 548戸(+2)
- 1月中の移動
 - 出生 2人 死亡 2人
 - 転入 3人 転出 4人

お悔やみ申し上げます

金田 暁 さん(大茅) 2月11日 83歳
野々上良則 さん(下土居) 2月13日 66歳
上山 博美 さん(大茅) 2月13日 59歳

善意の窓

(村社会福祉協議会から)

平成22年1月20日～平成22年2月19日

おめでとうございます

別府 木村 美紀 様 長男 和樹 様 結婚内祝
引谷 小松 隆人 様 二女 陽葉 様 誕生内祝

お大事にしてください

引谷 青木ときよ 様 本人 退院内祝
引谷 青木 きぬ 様 本人 退院内祝
大茅 上山 完治 様 本人 退院内祝
別府 小林 富子 様 本人 退院内祝
猪之部 河野 義幸 様 母 靖子様 退院内祝

ご冥福をお祈りします

大茅 萩原 金吾 様 亡父 正雄 様 香典返し
猪之部 延東 輝一 様 亡父 信男 様 香典返し
下土居 野々上良弘 様 亡兄 良則 様 香典返し
大茅 金田 仁士 様 亡父 暁 様 香典返し
大茅 藤本 隆史 様 亡母 上山博美様 香典返し

〔おわびと訂正〕

2月号「善意の窓」欄

〔誤〕大茅 萩原 正明 様 本人 退院内祝

〔正〕大茅 萩原 正明 様 叔母 照代 様 退院内祝

今月の村税

国民健康保険税（第10期）

納期限：3月31日(水)

◎納期限にご注意いただき、納付をお願いいたします。

口座振替の場合は残高確認をお願いいたします。

お問い合わせ先：西栗倉村役場保健福祉課

たばこは村内で買いましょう

掲載して欲しい写真・イラスト・
特筆希望・地域の情報・その他広
報に対するご意見等をあずせくだ
さい。はがきの他、電話・インター
ネット・電子メールでご連絡いた
だいても結構です。

◎はがきの場合、表に住所・氏名・
電話番号を書きつけてください。
◎4月号は3月18日(木)が締め
切ります。

